

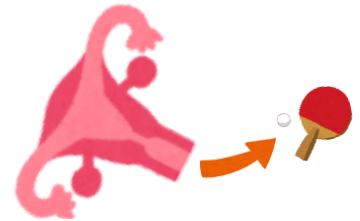
外陰部の違和感や、頻尿、残尿、排尿困難感、閉経後出血などの症状でお悩みの方はいらっしゃいませんか？  
もしかしたら子宮脱といわれる疾患かもしれません…

## 女性の生活を苦しめる病「子宮脱」とは！？



「先生…股の間にピンポン玉を触れるんです。おしっこが近くて、

トイレに行っても出しづらくて、一晩で何回も起きてしまい眠れません…」と、苦しい胸のうちを打ち明けて下さる多くの方がいらっしゃいます。子宮脱という病気です。子宮脱とは本来は骨盤の中にある子宮が下垂してしまい、子宮の他にも膀胱や直腸なども一緒に下垂することから骨盤臓器脱と総称されます。外陰部から子宮頸部が見えている方も少なくありません。本来は膣の奥にあるべき子宮が外陰部から出ているため下着に擦れることで出血し、子宮と一緒に下垂した膀胱は引き延ばされることで、排尿がしづらくなります。膀胱内に尿が溜まった状態が続くことで、膀胱炎や腎盂腎炎を繰り返すという、女性の生活の質を著しく低下させる病気です。多産、経膣分娩歴、加齢、肥満、慢性便秘などがリスクであり、子宮を支えている組織の分娩時の損傷や萎縮・弛緩が原因とされます。つまり、腹圧のかかる力仕事を長年続けてきた子だくさんの方に発症します。



北部地域には、今帰仁村のスイカや、東村のパイナップルなどを始め、多くの特産品があります。年齢を重ねた方も現役の働き手として北部地域の産業に貢献されていることから、北部地域は骨盤臓器脱の発症が多い地域ではないかと私は考えています。当院を受診された子宮脱の方の職業を挙げますと、農業、食肉解体業、調理師、看護師、介護士、旅館業、花屋、主婦などが多く、いずれも立ち仕事であることがわかります。2007年に超高齢社会となった我が国は、今後も高齢者率は高くなると予測されており、子宮脱で生活がしづらくなる方も比例して今後とも多くなると思われます。病気の部位が外陰部であり、羞恥心から夫や子供たちにすら誰にも言えず、一人で長年耐え忍ぶことが多いことも特徴です。当院産婦人科の受診に至った患者さんに、「子宮脱は人生を頑張って生きてきた方に多く、人生の勲章のような病気ですよ。」と伝えると、涙を流される方もいます。自分自身のことは後回しにし、家族を支えるためにずっと頑張って来られてきたのだと思います。



子宮脱の記述は古く、パピルスが使用されていた紀元前に遡ります。紀元前400年の資料では、患者を逆さ吊りにして子宮を還納させるという非科学的で信じがたい保存的治療や、脱出物を絞扼して壊死させて摘出するという無謀な手術が行われてきた歴史があります。人類は、古代・中世・現在と長い年月をかけて子宮脱と闘ってきました。

紀元前400年の子宮脱の治療



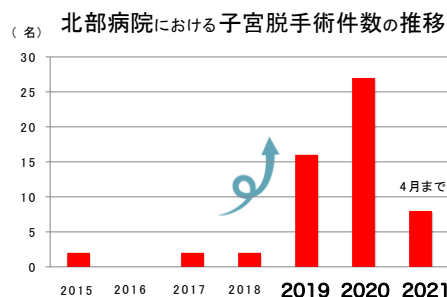
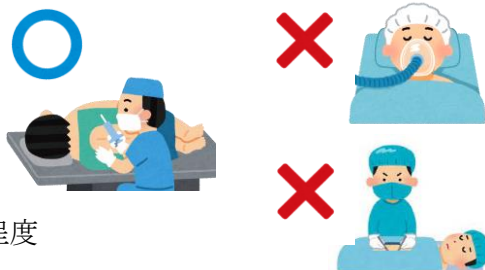
一般的な治療にはリングペッサリーという保存的療法と、  
 膣式子宮全摘術を代表とする手術療法があります。リングペッサリーは膣内に挿入するだけの簡便な方法ですが、膣壁が圧迫され続けるため、合併症として潰瘍・びらん、出血、感染を起こすことがあります。つまり、膣壁に褥瘡が起るため、その有無の確認のために2~3ヶ月毎の定期通院が、基本的には一生必要となります。もしリングペッサリーを膣内に挿入したままにすると、膣壁にめり込んだり、穴が空いてしまうこともあります。



当院産婦人科が現体制となった2019年5月以降、私たちは子宮脱に対して、膣式子宮全摘術を精力的に行っており、2021年4月までに約50名の方が当院産婦人科で手術を受けられました。膣式子宮全摘術は、脊椎(下半身)麻酔下で膣から子宮を摘出するため開腹術を必要としません。手術時間は1時間30分弱程度で負担が少ない術式だと考えています。

膣式子宮全摘術

- ・脊椎麻酔(下半身麻酔)
- ・開腹術不要
- ・手術時間: 1時間30分程度



伊江村や伊平屋村などの離島や、国頭村などの遠方から、数ヶ月に一度のリングペッサリー交換のためだけに当院に通院されていた患者さんが、手術を受けられた後は定期通院が不要となり、患者さんご本人だけでなく、今まで付き添いが必要だったご家族からも喜びの声を頂いています。「おしっこのことを気にしないでいいよ。夜起きなくて済むようになったから眠れるようになったよ。歩けるようになったよ。仕事がまたできるよ。」という治療に満足された声を聞くことができました。手術を受けられた患者さんの中には、歩きやすくなったことで、ダイエットに成功した方もいらっしゃいました。

外陰部違和感や、頻尿、残尿、排尿困難感、閉経後出血などの症状でお悩みでしたら、子宮脱の可能性があります。その場合にはどうかかかりつけ医にご相談の上、北部病院産婦人科へ紹介受診を頂ければと思います。

